

1. 授業の概要(ねらい)

日常生活において、人は膨大な量の社会的情報を処理しながら、自分や他者や社会を理解し意味づけている。ここでは、社会的情報を処理する個人内の過程に焦点を当て、社会的自己、社会的認知、感情についての研究を紹介する。できるだけ多くの実証研究を通して、人が自己や他者をどのようにとらえているか、他者との相互作用においてどのようなバイアスはたらるか、身体で感じ取った情報がその後の判断をどのように方向付けるか、社会生活を営む上で感情がどのような役割を果たすかなどについての理解を深める。研究の方法を具体的に把握するために、(1)実験や調査のデモンストレーションを行う機会、(2)現在進行している研究に参加する機会、(3)近年注目されている研究の内容を外部講師にわかりやすく解説してもらう機会を設ける。

2. 授業の到達目標

- ①社会的情報を処理する個人内過程についての専門的な知識を説明することができる。
- ②社会心理学とその近接領域の研究を批判的に検討することができる。

3. 成績評価の方法および基準

- ①専門的知識の習得状況を知るための試験の成績(70%)
- ②社会心理学とその近接領域の研究を批判的に検討できるかを調べるための課題の成績(30%)

4. 教科書・参考文献

教科書

指定しない。参考文献は授業内で随時伝える。

参考文献

池田 謙一 (編著), 唐沢 稷 (編著), 工藤 恵理子 (編著), 村本 由紀子 (編著)
社会心理学 補訂版 (New Liberal Arts Selection) 有斐閣
浦 光博 (編著), 北村 英哉 (編著) 個人のなかの社会(展望 現代の社会心理学1) 誠信書房
外山 みどり (編著) 社会心理学—過去から未来へ 北大路書房

5. 準備学修の内容

- ・配布プリントの内容の予習と復習をし、基礎的な専門用語について説明できるようにする。
- ・各授業において紹介された方法や理論を理解する。さらに、今後どのような方法で何を明らかにすべきかについての自分の考えをまとめる。
- ・授業での指示に従って課題を提出する。

6. その他履修上の注意事項

- ・教室の大きさや授業内容に合わせて、受講者数を制限することがある。必要に応じて抽選を行うため、初回授業の前後の連絡に留意すること。
- ・資料配布および課題提出には、帝京大学のLMSまたはWeb File Serverを利用する。テキストは指定しない。参考文献は適宜紹介する。
- ・各授業回の資料を印刷する必要がある場合には、事前に各自でプリントアウトしておく。
- ・授業回の順序は変更になることがある。
- ・調査や実験を主とする研究に参加し、その研究についての解説を受ける機会を設ける予定である。これらの研究の実施から報告までのいずれの過程においても、研究参加者の匿名性には十分配慮する。結果の報告には、参加者全体のデータを統計的に分析した結果が用いられ、個人を特定できる情報が含まれることはない。

7. 授業内容

- 【第1回】 個人内過程の社会心理学研究の特徴を学ぶ
- 【第2回】 自己制御とそのメカニズムを学ぶ1
- 【第3回】 自己制御とそのメカニズムを学ぶ2
- 【第4回】 色を見て生じる社会的認知を学ぶ1
- 【第5回】 色を見て生じる社会的認知を学ぶ2
- 【第6回】 触れることで生じる社会的認知を学ぶ1(オンライン授業)
- 【第7回】 触れることで生じる社会的認知を学ぶ2
- 【第8回】 社会心理学とその近接領域の研究とその方法を学ぶ(外部講師)
- 【第9回】 明暗から生じる社会的認知を学ぶ
- 【第10回】 身体性の社会心理学を統合的に学ぶ
- 【第11回】 潜在的態度と顕在的態度について学ぶ2
- 【第12回】 感情から生じる社会的な認知と行動を学ぶ1
- 【第13回】 感情から生じる社会的な認知と行動を学ぶ2
- 【第14回】 ミクロ社会心理学の意義と課題をまとめ、理解度を確認するための試験を行う。
- 【第15回】 社会心理学とその近接領域の研究とその方法を学ぶ(外部講師)